

母校を
たずねる

学んだ生きる「姿勢」

コメリ社長 捧雄一郎さん =1974年度卒

埼玉県立春日部高

4

全国に約1200店舗を展開するホームセンター大手、コメリ(本社・新潟市)の捧雄一郎社長(64)は1974年度卒。毎日、往復2時間以上かけて埼玉県立春日部高に通いました。「質実剛健」を校訓に掲げる春高で、現在の仕事にも通じる「ものごとに正面から真面目に取り組む姿勢」を学んだと話します。

【萩原佳孝】

小学生のころから漠然と憧れがあり、行くなら春高だと思っていました。私の生まれた埼玉県吉川町(現吉川市)は東武鉄道の沿線から外れ、交通の便もよくなかった。同じ中学から春高に進んだのは私も含めて3人でした。

入学してみると、浦和や大宮あたりから通ってくる生徒は都会っ子で、勉強もよくできるという印象でした。それに比べ、自分がいかにも田舎っぽく思えて圧倒された、というのが最初の経験です。

最寄り駅まで最初はバスでしたが、すぐ自転車に切り替えました。その方が早かったのです。それでも30

分以上かかり、雨の日もカッパを着て自転車を走らせました。そこから電車なので、学校まで片道1時間以上かかりました。中学で野球をやっていたし、熱心に誘われもしましたが、通学が大変だったので方向転換し、写真部に入りました。当時は白黒のフィルムカメラで、自分たちで現像もする。暗室にこもって印画紙に露光し、現像液につけると、すーっと像が浮き上がってくる。撮影時に描いたイメージ通りにはなかなかならないのですが、その瞬間はわくわくしました。何かを作り上げる喜びみたいなものがあるって、それは今の仕事につ

ながっていると思います。校舎内も土足だったの

ささげ・ゆういちろう 1956年生まれ。中大理工学部卒。88年コメリに入社。2003年、同社社長に。コメリは、沖縄を除く46都道府県に1209店舗を展開する国内最大規模のホームセンターチェーン。「住」分野の提案強化、リフォーム関連資材、園芸農業資材の流通近代化に力を入れる。



コメリの捧雄一郎社長=新潟市のコメリ本社で、萩原佳孝撮影

「質実剛健」の学舎



火災に遭う前の旧木造校舎一同校同窓会提供

つに「世の中の人々の幸せのために この仕事がありますように」という言葉があります。私たちの仕事で一番大切なのは、お客様が困っていること、不満に感じていることを解決に導くよう提案をし、喜んでいただくことです。全ての問題は現場に現れる。そういう目で現場を回っています。

「仕事は正面から取り組め」という言葉もコメリにはあります。人間は弱いので困難を避けたい時がありますが、正攻法で立ち

卒業生「私の思い出」募集

埼玉県立春日部高校卒業生のみなさんの「私の思い出」を募集します。300字程度で、学校生活や恩師、友人との思い出、またその後の人生に与えた影響などをお書きください。

卒業年度、氏名、年齢、職業、住所、電話番号、あればメールアドレスを明記のうえ、〒100-8051、毎日新聞地方部首都圏版「母校」係(住所不要)へ。メールの場合はshuto@mainichi.co.jpへ。いただいた「思い出」は、紙面や毎日新聞ニュースサイトで紹介することがあります。

向かっていかないと、道は開けないと考えています。春高の校訓は「質実剛健」。飾りを捨て、正面から真摯に真面目に物事に取り組んでいく、という校風です。コメリもそういう社風なので、同じようなベクトルで動いていると感じます。根っここのところを春高で鍛えられたと思っています。

1953(昭和28)年3月25日未明、春日部高校の校舎本館から出火、木造2階建て校舎を全焼した。開校した1899(明治32)年に建てられた歴史ある建物で、復元図を作製したOBの

建築家、関根正省さんが百年史に「威厳のあるなかなかの名建築」と記しているように、本館正面の破風屋根には独特の風格があった。

旧校舎で入学試験を受けた受験生は、焼け跡近くに張り出された名簿で自身の合格を知ったという。4月から新学期は平常通り。焼け残った雨天体操場や講堂などを大急ぎで改築し、机や黒板などの備品は近隣の高校から借りた。全校生徒で焼け跡の片付けを行うなど、困難な状況のなかで授業や部活が続けられたという。

2年後の55年7月、新校舎が完成。当時最高の建築技術で造られた鉄筋4階建て校舎は建築誌にも紹介され、国内外から見学者が訪れた。ただ、築年数を重ねた同校舎で学んだ40代以上のOBは口をそろえ、懐かしむように、その「古き」や「汚き」を語る。その後、創立100周年に合わせ、3代目となる近代的な校舎が99年に完成し、生徒たちは充実した環境の下で学校生活を送っている。次回(5月12日)に掲載